

令和4年度第2回野中生涯学習センター運営委員会

日時	令和5年3月23日(木)10時00分～11時30分
場所	久留米市野中生涯学習センター 軽運動室
出席委員	足立委員,原(典)委員,野田委員,坂井委員,南島委員,藤村委員,原(稔)委員
欠席委員	石井委員、行徳委員
事務局	(生涯学習推進課)森山、大隈 (指定管理者)杉山、隈
傍聴者	なし

1. 開会	
2. 委員長あいさつ	
3. 議事	
説明:事務局	(1)令和4年度事業報告について
委員①	各事業の募集方法は電話か。
事務局	電話、FAX、窓口、インターネットで受付しているが、電話での応募がほとんどである。11月から試験的にインターネットでの申込も開始したが、年配の方は電話での応募されている。
委員②	夜間の時間帯の講座は、今後どのくらいの頻度で行う予定か。
事務局	来年度は2回ほど計画している。
委員②	家庭教育事業の親子エコ教室について夏休み中の開催でないにも関わらず申込者が多い理由はどう分析しているか。
事務局	スムーズにかたどった石鹸を製作したが、見た目もかわいらしく、それを親子で一緒に作るということで好評だったと思っている。
委員③	高齢者事業で行ったスマホ教室と、説明にあった広報戦略課が野中生涯学習センターで3月に実施したスマホ教室は内容的には同じようなものか。
事務局	基本的には同じ内容。市広報戦略課のスマホ講座は、市公式LINEの普及を目的として、LINEアプリ使用に至るためのスマートフォンの基本操作などのメニューで構成されていた。
委員③	青少年体験事業は申込者がすごく多く、人気があるならば複数回の実施は検討できるのか。
事務局	来年度は1日2回の講座を2日間に増やして実施したいと、講師と打ち合わせしている。ただし、講師のサポートが参加者に届くように、1回あたりの人数を少し減らして対応することを検討している。
委員④	申込み数が多い中でどのような抽選方法をとっているのか。
事務局	陶芸教室では前年度受講者が抽選で当選した事案があったため、木工教室にも申し込みされた際には申込をご遠慮していただいた。

委員⑤	野中の事業は初心者向けということであるが、講座のリピーターも受け付けているのか初心者に限って募集しているのか。
事務局	リピーターの方も受け付けている。
委員①	事業の申込について、先着順や抽選は募集段階で決めてあるのか。
事務局	募集段階で決定している。応募数の多い子供を対象とした事業は抽選、それ以外は先着順での応募。
委員①	抽選に落選した方へのお知らせなどのフォローはとってあるか。
事務局	基本的にホームページで知らせしている。受付の際に、受付番号を渡し、ホームページで確認できるようにしている。電話での問い合わせにも対応している。
説明:事務局	(2)令和5年度事業計画の概要案について
委員④	家庭教育や青少年体験事業はそれぞれ回数が増えるが、令和5年度も抽選での選考をするのか。
事務局	抽選での選考する予定。
委員④	講座の申し込み方法が、電話・FAX・ホームページからとあるが、申込方法はどんな優先順位で受け付けているのか。
事務局	電話とホームページの応募可能数の枠を決めて先着順で受け付けている。
委員③	施設利用者の年代はどのような感じか。
事務局	施設利用者は日中に活動できる女性とシニア層が圧倒的に多い。夜間になると子どもや若い年代の利用が増える。
委員③	ストレッチング教室を令和5年度は成人事業から高齢者事業に移した理由は何か。
事務局	今年度の受講者が60代以上で70・80代の方が特に多く、ニーズが高いと判断した。講師は全年代に対応可能だが、講座受講者の年代が幅広くなるとケアの仕方が異なるということもあり、高齢者の方に絞ったほうがいいのではないかと講師と相談した。
委員③	利用者親善ボウリング大会は、今年度はコロナの影響などで申し込み数が少なかったということだが、例年の申し込み数は多いのか。今後、開催について見直しを考えているか。
事務局	例年の申し込み数は多くない。ボウリング大会は、ボウリング年代の変更、コロナを理由に控えてある方や、ボウリングという種目に対して壁がある方もおられる。コロナが落ち着けば以前開催していた餅つき大会を検討して良いのかもかもしれない。
委員⑥	私の団体では、ボウリング大会にはうちの劇団多分参加したことがない。勤労青少年ホームの時代のボウリング大会何回か参加したことがあるが、団体ごとのレーンで他の団体と交流ができなかったのも、それから参加していなかったと思う。団体の枠を超えて親善できるようなものになると参加者が増えるのか

	など思う。
委員⑤	家庭教育事業と青少年体験事業の定義の違いは何か、区分の基準があるのか。
事務局	家庭教育は、ご家族の方と一緒に何か物を作ったりとか、学んだりというような内容、青少年体験事業は親の参加が必ず必須条件ではなく、子どもたちが成長するにつれて身につける、良いものを提供するという場と捉えている。
委員⑤	「みんなでアート展」は8月29日～9月3日、9月19日～24日となっているが、両日程行うのか、片方だけ行うのか。2回行うなら、ジャンルをかえるのか、続けて両日程行うのか。
事務局	未定である。施設として、真夏の開催日を避けて施設の確保をしたところ、施設の空き状況の関係で間に1週間はさむかたちでその期間となった。参加される方や団体の意見を尊重したいと考えている。
委員⑤	結局事務局の考えとしては、どちらか1週間したいのか、2週ともやりたいのか。
事務局	例年並みに2週間分会場を確保しているという段階。前年度は2週間分確保していたが、参加者が少なかったため、結局1週間に短縮したので、参加者が集まらなければ1週間のみになる可能性もある。
委員④	令和4年度の青少年体験事業は講座名に「夏休み」が入っていたが、5年度は意図的に「夏休み」としているのか。
事務局	陶芸教室は夏休み前の期日だが、計画段階に「夏休み」部分が決まっていたため、そのまま実施した。私の中では夏休みに開催ということは参加者にとってはそこまで重要な要素ではないと思ったので「夏休み」という言葉は外した。
委員④	家庭教育事業が親子での活動が中心なら、青少年体験事業で子どもたちだけを対象に陶芸教室も行っていいのではないか。
事務局	実際の様子を見ると、子どもたちだけでは作品が出来上がらず、大人の助けが必要なので、子どもだけで参加ということが私の中ではイメージできなかった。計画の段階なので、見直しさせていただきたい。
4. 報告	
説明:事務局	過去三年間の利用者数・今年度の部屋別稼働率について説明
委員④	登録団体の中で団体からメンバーの募集をしたいという話や、講座の参加者の方々がサークルに移行したいという話が上がってくるのか。その際にどのような連携があっているのか。
事務局	サークルによって状況は違うが、メンバー募集したい方の募集チラシの対応や、初めて来られた方がサークル見学を希望される際には案内するなど、相談には応じている。
委員①	利用者目線で何か希望などないか。
委員⑦	私の所属するアンサンブルサークルでは基本的に少人数で空いている部屋を

	借りているが、多目的棟の会議室は響きすぎるので避けている。よって、多目的棟会議室の稼働率が低いのかと思う。
委員⑥	演劇サークルでも声が響きすぎるので、多目的棟会議室は避けている。また登録団体は WEB 予約ができるようになったので施設が使いやすくなって非常によく活動ができているように思う。ただ、同じ分野の他の団体との交流がなく、幅広く付き合いができるようになって、いろいろな情報が聞きたい。
5. その他	
説明:事務局	委員改選及び次回運営委員会についての説明